

平成 30 年度 香川大学 瀬戸内圏研究センター 学術講演会

[本城ゼネラルマネージャー]

皆様、お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。ただいまより、平成 30 年度香川大学瀬戸内圏研究センター学術講演会を開催したいと思います。開催にあたりまして、センター長であります多田先生からご挨拶をお願いいたします。

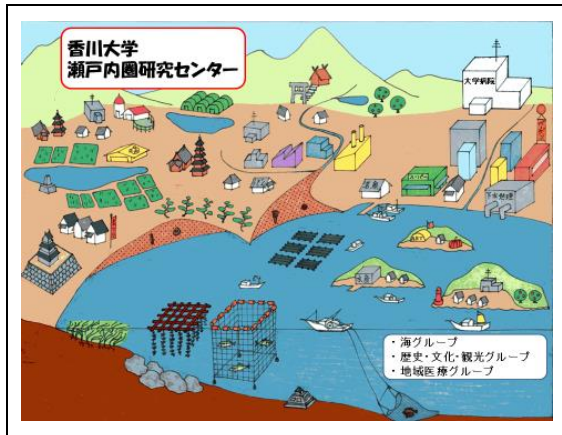
[多田センター長]

皆様、こんにちは。センター長の多田です。今日はよろこばしく講演会にお越し下さいまして、ありがとうございます。私達の瀬戸内圏研究センターは設立 10 年を迎えました。当センターは瀬戸内圏に内在する諸課題を掘り起こして、その解決に向けて研究し、研究成果を地域に還元することを目的に設立されました。

このセンターには「海グループ」、「歴史・文化・観光グループ」、「地域医療グループ」の 3 つのグループがあります。

まず、1 つ目の「海グループ」ですが、瀬戸内海はわが国最大の閉鎖性水域であり、たくさんの方が周りに住んでいて、なおかつ島がたくさんあって、そこでは水産業が営まれていて、獲る漁業から魚類養殖、カキの養殖、ブリの養殖などが盛んに行われています。また、干潟あるいは藻場といったような浅場がたくさんあります。この浅場というのは海の生物にとって、非常に大切な場所です。そういうところを研究するグループです。

次に、「歴史・文化・観光グループ」ですが、右肩上がりの時代が終わって、瀬戸内圏に大きな産業が興ることはもう期待できません。そこで、瀬戸内圏の固有の歴史や文化を評価し、観光資源として生かすことで、たくさんの方を呼び込み、たくさんお金を落としてもらって地域を活性化させる。そういうことを研究してきました。特に魚食という面から観光を



考え、あるいは地域興しを考えるとということなどもめざしています。

「地域医療グループ」ですが、香川県には当センターで開発した大学病院などの総合病院や地域の病院をインターネットで相互に結んで、医療情報を交換することができる K-MIX+ というシステムがあります。そして、瀬戸内圏には離れ島が多く、今では島の診療所にお医者さんがいなくなったりしています。そこで、K-MIX+を活用して遠隔で診療したりできるようにするなどの研究開発を行っています。

後で紹介があると思うのですが、昨日、朝の NHK 番組「まちかど情報室」に原先生が出演されまして、原先生開発の「妊娠したお母さんのお腹にハート形のセンサーを付けることで、家から病院に赤ちゃんの心拍信号が伝送され、病院に行かなくても遠隔診断してもらえる」というシステムの紹介がありました。

今日の学術講演会ですけれども、瀬戸内圏研究センターでは毎年、この時期に学術講演会を実施しています。これは地域の皆さんや学内の方々に瀬戸内圏に持ち上がっている課題について、問題について興味を持っていただく。それから、その解決策、あるいはそれに関する話題提供ができる先生に来ていただき、我々も一緒に勉強する。そういうことを目的に、毎年この時期に開催しています。

今日は「海グループ」の話題として、大阪の環境農林水産総合研究所水産技術センターの山本さんに来ていただきました。山本さんにはこの春、非常に長い期間発生したアレキサンドリウム・タマレンセの赤潮の話をしていただきます。非常にタイムリーなお話を聞けることになりました。

それから、「歴史・文化・観光グループ」の話題として、先ほど魚食から地域活性化をという話をしたのですが、香川県の水産試験場から川西さんに来ていただきました。川西さんは水産試験場の場長もされたのですが、県庁の水産課で長く水産行政で活躍された方です。魚の名前であるとか、その由来について非常に詳しい方なので、今日は魚食という、食べるということから香川県における主な魚の利用の歴史ということでお話をさせていただけることになっています。

そして、「地域医療グループ」の話題として、樽松さんから医療 ICT グローバル展開の紹介ということでお話をさせていただきます。先ほど少しお話をお伺いしましたら、医療に限らず通信関係は何でもやりますということでしたので、これらのお話もさせていただけることになっております。

今日は長時間になりますけれども、3人の方に講演していただいて、しっかり勉強したいと思います。最後までよろしく申し上げます。